

説教題：同じ国民であり、神の家族です

鍵となる聖句：

エペソ人への手紙 2：19 - 「こういうわけで、あなたがたは、もはや外国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」

ヘブル人への手紙 10:24-25 - 「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。²⁵ ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

お早うございます。OIC の記念日、おめでとうございます。今日、私たちは、最初の礼拝がなされて以来、49 年目を祝います。

この特別な日に皆さんと何を分かち合おうかと考えていたとき、数ヶ月前に大阪インターナショナル・チャーチの信仰声明、つまり福音主義クリスチャンとして私たちが拠り所とする教義について一連のメッセージをしたことを思い出しました。そして、私たちの教会の教会則の中に、教会の創立者たちが抱いていた核心的な確信のいくつかを伝えるもう一つの声明があることを思い出しました。この声明は教会則の前文にあります。OIC の歴史についても少し触れたいと思いますが、今日私が注目したいのはこの声明です。

これらは規則の最初の言葉です。「前文:大阪地域に住む英語を話すプロテスタントのクリスチャンのグループは、イエス・キリストに従う者たちが相互の励まし、公の礼拝、積極的な奉仕のために交わりを交わすことが神の御心であると信じて、団結して大阪インターナショナルチャーチを組織しました。…」

私たちの教会の設立者は、イエス・キリストに従う者達は、3つの目的のために結び合うべきことが神の御心だと信じていました。互いの励ましのため、公の礼拝のために、活発な奉仕のために。私は、今日のメッセージの中で、これらの3つのテーマに触れます。

しかしその前に、大阪インターナショナル・チャーチの歴史について、そして私自身の歴史についても少しお話ししたいと思います。1970 年代に戻りますが、その時、大阪の地域に英語の教会はありませんでした。ピーター岡山と言う日本人牧師はそれを変えたいと思っていました。彼ともう一人、斎藤ツギオという男性は、英語で礼拝し交わるための場所を大阪で暮らしている海外からのクリスチャンたちに提供

したいという願いがありました。彼らは、岡山牧師の友人で、アメリカに住んでいるジャック・マーシャル師と、このビジョンを分かち合うために訪問しました。ジャックさんは、日本で宣教師でしたし、短期間、関東で2つの英語の教会を牧会する経験を持っておられました。ジャック牧師は、この訪問に興奮しました。大阪を訪問し、多くの祈りの後、彼は、この新しいインターナショナルの信徒の集まりを牧会する召しを受け入れました。1974年に、ジャックさんと妻のジェリーさんは、ここに引っ越しました。そして、その年の10月13日に最初の礼拝が持たれました。彼らのために会議室を提供した、ロイヤルホテルで行われました。ジャック・マーシャル師は牧師でした。ピーター岡山師は副牧師でした。そして斎藤氏は、その最初の礼拝でオルガン演奏をしました。最初の讃美歌は「神に栄光あれ」でした。私たちは、今日、それを歌いました。OICの私の初期のころ、その讃美歌は記念日に、毎年繰り返して歌われました。そして、私たちは、今日の礼拝の始まりに、再び歌いました。

1992年、ジャック牧師はOICから退職されました。彼と妻のジェリーさんはアメリカに帰国され、3-4年後にジェリーさんは亡くられました。1990年代の終り頃、OICの元メンバーであり、教会の秘書であった山本恵子さんと結婚されました。皆さんの多くが、ジャックさんと恵子さんにお会いになったでしょう。彼らはここにも数回訪ねてこられました。2000年の最初のころ、ジャックさんと恵子さんは、オーストラリアのブリスベンに招かれ、新しく日本語と英語のバイリンガルの教会を始める手伝いをされました。彼らは、そこに6年間おられました。それから、恵子さんの地元である尼崎に戻って来られ、もう一つのバイリンガルの教会、リジョイスを始めました。皆さんの多くが、そこを訪れたことを知っています。

私が初めて大阪国際教会を訪れたのは、ジャック・マーシャルがOICの牧師を引退した1992年のことでした。当時は、都ホテルで礼拝がなされていました。私は、ここに1990年代から2000年代までの日曜日の週報のコレクションを持っています。そしてこのスクリーンに二つの週報が見えるでしょう。1990年代初期、私達の週報は、二つの聖書箇所、つまりエペソ2:19と5:19と共に都ホテルの写真が特徴となっていました。この二つの聖書箇所は、何年もの間、日曜日の週報の顔となり続けました。私は、今日のメッセージのためにの鍵テキストとして、その聖句に焦点を当てたいと思います。

エペソ人への手紙 2:19 - 「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」

私は今日の説教のタイトルをこの聖句から取りました。タイトル：「同じ国民であり、神の家族です」。

そのエペソ 2:19 は、私は本当に私の心に弾きます。その理由は、私が初めて大阪に来た時、私は、ここではよそ者であり、外人だと感じ、そして OIC で神の民と共にいられる教会を見つけたからでした。

年に初めて大阪に来たとき、私はクリスチャンの交わりに飢えていました。海外旅行もたくさんしたし、日本の片隅で宣教活動もしたことがありました。大阪に定住することを熱望していた私は、大阪に来て高校で英語を教える仕事を見つけました。そのころ、大阪府に 3 つの英語の教会がありました。大阪での最初の 2 年間に、それらの 3 つを訪ねました。私が一番じっくり来たのが、大阪インターナショナルチャーチでした。OIC で私が見つけたものは、私の世界旅行中に様々な教会を訪ねた時に見つけたものに似ていました。世界旅行中に私が見つけた注目すべきことは、私が行くどこでも同じ考えの人々を見つけることができたことでした。私が訪ねた教会で、私と同じ信仰、同じ価値の兄弟姉妹を見つけたからです。たとえ宗派を超えてもです。神の言葉に立っている伝道的な人々や、二ヶア信条にあるこれらの概要のような原理主義的なキリスト教教義に立っている人々の間にでも、宗派による意見の相違よりも、はるかに多い一致があります。

学生の時に覚えた聖句、それはその時から、とても特別なものになっていますが、それを皆さんと分かち合わせてください。これが今日のメッセージの 2 つ目のキーとなる聖句です。

へブル人への手紙 10:24-25 - 「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。²⁵ ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

25 節をもう一度見ましょう: 「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで」 私は、教会を休むことを習慣にたくありません。事実、日曜に教会にいて、自分の兄弟姉妹と交わりを持ちたいです。

もう一度、私たちの教会則の冒頭の一節を読みましょう。「前文:大阪地域に住む英語を話すプロテスタントのクリスチャンのグループは、イエス・キリストに従う者たちが相互の励まし、公の礼拝、積極的な奉仕のために交わりを交わすことが神の御心であると信じて、団結して大阪インターナショナルチャーチを組織しました。…」
交わり.....相互の励まし合い.....公の礼拝.....積極的な奉仕活動。

クリスチャンとしての生き方について考えるとき、正しい基本的な教義を受け入れることだけが重要なわけではありません。私たちはこの前文で、共同体、つまりイエス・キリストを信じる者たちの共同体について読んでいます。これもまた、クリスチャン生活の重要な側面です。正しい教義.....そしてクリスチャンの共同体。今日の

メッセージの残りの部分として、キリストの体であるキリスト教会の生活において、私が重要だと感じているいくつかの特徴について分かち合いたいと思います。

ヘブル 10:24-25 をもう一度見てみたいと思います。25 節は、一部の人々がしているように集まることをやめてはいけないと教えています。私は皆さんに、海外旅行中も日曜日に神の民とともにいたいとどれほど願っているかを伝えました。あなたが住んでいるここで地元の交わりの一員になることがどれほど重要であるか。それが教会生活の最初の側面であり、今日のメッセージで強調したいのは、一緒に集まることをやめないでくださいと言うことです。教会出席をやめてはなりません。なぜなら、私たち一人一人がクリスチャンコミュニティの積極的な一部になる必要があるからです。あなたの教会はあなたを必要としています...そして、兄弟姉妹の交わりが必要です。

25 節を見てください。教会生活の第二の側面として強調したいのは、私たちが互いに励まし合うことです。だからこそ、私たちはクリスチャンコミュニティで活発になる必要があるのです。教会は家族であり、霊的にも情緒的にも互いに支え合う必要があります。エペソ 2 章 19 節に記されているように、わたしたちはもはや見知らぬ人や外国人ではありませんが、神の家族の一員であり、神の家族の一員であり、主とともに歩むときに互いに励まし合うべきです。

今日のメッセージの最初に皆さんにお見せした最初の OIC の週報に、エペソ 5 : 19 - 20 からの引用文があります — 「詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。²⁰ いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しなさい。」

関連聖句であるコロサイ人への手紙 3:16 — 「キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。」

エペソで、私たちは詩と賛美と霊の歌を互いに言うと言われています。コロサイでは、詩と賛美と霊の歌によって、互いに教え戒めあう言っています。ここには、私が強調したい教会の生活の 3 番目の側面があります：互いに教えあい戒めあう。互いに教えること、戒めあうこと、励ますことは、教会生活、集会生活の重要な特徴です。そして私たちは、そうする時、神の言葉を用います。コロサイで「キリストの言葉を、あなたがたの内に豊かに住ませ…」— 私たちは聖書の言葉を読み、聞き、そして言葉を私たちの内に満たし、そしてその言葉によって私たちを教え、私たちを変えさせるべきです。わたしたちは、いつもクリスチャンの命の中で学び、成長している必要があります。そして、時々私たちは、正しい道を歩み続けるために私たちを戒めてくれる仲間のクリスチャンたちが必要です。なぜなら、私たちの

誰も従順において完全ではなく、行動においても完全ではないからです。そしてエペソとコロサイからの引用文で、「詩と賛美と霊の歌」が詩編で見る様々な種類の歌への言及のように見えます。神の言葉(聖書)と教会の歌の両方は、神の民にとって教え、戒める資源となります。

ここにもう一つの聖句、箴言 27:17 があります - 「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」別の英語訳(NKJV)では、この節をわずかに異なる方法で表現しています - 「鉄が鉄を研ぐように、人は彼の友人の顔を洗練させる」。友人の顔を洗練させる。互いに励まし合い、戒めし合うといなさいということに従うとき、わたしたちは互いに研ぎ澄まされ、互いの表情を研ぎ澄ましていきます。同胞のクリスチャンに対する私たちの言葉が、彼らの生活と主と共に歩む人生を築き上げ、明るくする言葉となることを願っています。去年のメッセージで、私は年をとるにつれて、私の人生全体が私の周りの人々の生活に否定的な影響ではなく、より肯定的な影響を与えることを願っていると話しました。なぜなら、私は過去の経験から、不機嫌になり、不平を言い、人々に否定的なコメントを言うことがどれほど簡単かを知っているからです。お互いに前向きに言葉を交わしましょう。

ローマ人への手紙 14:19 - 「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。」

1テサロニケ 5:11 - 「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」

エペソ 2:19 に戻りましょう - 「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。」もし、皆さんがこの句の背景を読むなら、彼の言わんとすることは、異邦人は、今や神の御計画に含まれています。それは、約束のメシアは、ユダヤ人同様に異邦人のためでもあるということです。18節は次のように言っています。「私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができます。キリストを通してユダヤ人も異邦人も今は、御霊によって父なる神に近づく手段を持っています。

1コリント人への手紙 12:13 を見ましょう - 「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」キリストに信仰を置く全ての人是一个の体です。ですから、ユダヤ人とか異邦人、奴隷とか自由人、全ては一個の体にするところの、一個の御霊に近づく手段を持っています。

ガラテヤ人への手紙 3:28-29 – 「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。²⁹ もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」

これが、私が強調したい教会生活の 4 番目の側面 です。あなたがユダヤ人か異邦人かは問題ではありません…あなたの社会的地位が何であるかは問題ではありません…あなたが男性か女性かは問題ではありません。キリストに信仰を置く全ての人は神の家族の平等に価値があるメンバーです。 – 私たちもアブラハムの子孫に与えられた約束の相続人にされています。

コロサイ人への手紙 3:11 – 「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」もう一度：ここでは、神の新しい契約の民の間で、古い分け隔ては消え去りました。人種や社会的地位は関係ありません。

そして、今同じ章の 12 から 14 節を読みたいと思います。私が強調したい、教会生活の 次の側面 を見るでしょう。：神の民を特徴づける、ある特徴的な性質です。

コロサイ人への手紙 3:12-14 – 「それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。¹³ 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。¹⁴ そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」

私たち - 主イエス・キリストなるメシアに熱心に受け入れているユダヤ人も異邦人も - 神の選びの民です。彼は私たちを愛しておられます。そして私たちは、「聖い」と呼ばれています。 – この言葉「聖い」は「分離する」の意味です。… 私たちは、この世の残りのものから分離され、今は神に捧げられているのです。

そして、私たちを印付ける、ある特徴的な特質をここで見ます。あわれみ、親切、謙遜、優しさ、忍耐、赦し、そして愛。

もう一度 13 節を見ます。「互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」互いに忍び合う – 私たち皆、不完全です。そして時々互いにイライラさせますが、互いに忍び合わなければいけません。そして互いに赦しあうことです。これはクリスチャンのメッセージとして重要です。

次の箇所は、私の妻が、日本語翻訳中に、皆さんのために書き加えました。もしあなたが誰かに傷つけられたとして、その傷を癒して欲しいと神に祈ります。でもあなたが神にその癒しを祈っても、癒されないと感じる場合があります。神の教えは、主の祈りにあるように「私たちの負いめ（罪）をお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました（マタイ 6：12）」とあるように、まず自分が先に相手の負い目を赦さなければなりません。たとえ、相手が悪くてもです。癒されないなら、本気で相手を赦そうとしないからです。本気で、赦す決心をすれば、後は聖霊が後押ししてくれます。その時、心の傷は癒され、心は晴れ晴れとします。その悪い出来事を思い出しても心に痛みはありません。これが本当の「赦し」だと思います。先月、赦しのメッセージでお話ししたように、赦しは双方に祝福をもたらします。新しい道を開いてくれます。赦しは癒しをもたらします。人間関係だけでなく全てにおいて。

コロサイ 3 章に戻りましょう。愛。私たちは愛によって特徴付けられています。14 節「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」にあるようにすべきです。愛と一致

ヨハネによる福音書 13:34-35 でイエスは言われます - 「あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。³⁵ もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」これは、キリストに従う者の世界を語っている特徴です：互いに愛し合う。

ここで、これまで概説してきた教会生活の側面を簡単に振り返ってみましょう：一緒に集まることをやめないでください。

私たちが互いに励まし合う。

互いに教えあい戒めあう。

キリストに信仰を置く全ての人には神の家族の平等に価値があるメンバーです。

神の民を特徴づける、ある特徴的な性質です（あわれみ、親切、赦し、愛など）。

先ほど、教会則の冒頭の行で、OIC の設立者たちは、イエス・キリストに従う者は、相互の励まし、公の礼拝、積極的な奉仕という 3 つの主要な目的のために一緒に働くべきであるという声明を表しました。私は最初のものについて多くのことを言った...次に、他の 2 つに進みませんが、これについては簡単に説明します。

私が、強調したい教会生活のもう一つの側面は公の礼拝です。私の神学の教科書の一つから 2 - 3 の文章を引用してこのトピックを紹介しましょう：*Lexham Theological Wordbook*. 「礼拝」という記事の中で言われている事があります。

初代教会の礼拝の典型的な描写は、長く使徒の働き 2 章 42 節でした。…他の報告は、初代教会の礼拝が献金、歌、そして聖霊の感じられる臨在が含まれていたことを示しています。(1 コリント 16:1-2; エペソ 5:19; ガラテヤ 3:1-5). 礼拝は、人生の全てが神への従順の中で生きることを含んでいました (ローマ 12:1-2)。… この礼拝は、様々な種族、言葉、国の人々が、創造物の残りと共に、小羊の御座の前で礼拝する時、その完成を見出すでしょう。(黙示録 5:11-14). (Esau McCaulley, “Worship,” ed. Douglas Mangum et al., *Lexham Theological Wordbook, Lexham Bible Reference Series* (Bellingham, WA: Lexham Press, 2014).)

黙示録第 5 章への最後の言及は、聖書の私の好きな箇所の一つであり、父なる神と、あなたや私のようなあらゆる部族、言語、国の人々を贖った神の小羊イエス・キリストへの賛美と礼拝の記述です。わたしはその聖句が大好きですが、今日は読みません。今の時と場所での教会生活を見て見ましょう。私の最初の引用文は「初代教会の礼拝の典型的な描写は、長く使徒の働き 2 章 42 節でした。」その聖句を見て見ましょう。

使徒の働き 2:42 – 「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」初期のクリスチャンたちは一緒に集まっていた時、彼らの集まりには、これらの 4 つの部分で構成されていました。1) 使徒たちの教えを堅く守る、2) 交わりをする、3) パンを裂く、そして 4) 祈り。第三部: 「パンを裂く」ことは聖餐式と、そしてしばしば食事と共に分かち合っていたことに触れています。(1 コリント 11 章にその事について更に見ることができます)。第四部: 祈りはユダヤ人の寺院では、礼拝の重要な特徴でした。そして現在に至るまで、クリスチャン礼拝において重要な特徴です。そして第二部: 交わり – 必須。今日のメッセージの最初に私がお話ししたほとんどは、どの様にして私たちは互いに励ましあい戒め合うかについてでした。そして 42 節は、初期のクリスチャンたちが「使徒の教えを堅く守り (絶えず)」ことを最初に語っています。教会の集まりで教えることの側面は、何時も礼拝の重要な特徴です – 聖書を読むこと、説教や短い訓戒の形で、それについての教えに耳を傾けること。

さて、私の説教の最後の部分に行きます。私が強調したい教会生活の最後の側面は、教会則の中にあります: 「積極的な奉仕」 私たち皆は、教会であるキリストの体の中であるべき部分を持っています。その役割が大きいか小さいかに関わりなく。私たちは皆、教会のある場所で奉仕するために神から賜物を与えられています。各部品は重要であり、あなたの部分が小さく見えたり、重要ではないと思われたりする場合でも心配しないでください – 夫々の仕事は、神によって評価されますし、教会生活に必要なのです。皆さんは、この話を私から以前聞いたことがあるでしょう。そして「奉仕の場所」という題の私の以前の説教を見ることをお勧めします。

1 コリント人への手紙 12:4-7 を見て見ましょう – 「さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。⁵ 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。⁶ 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。⁷ しかし、みなの益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。」

11 節 – 「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

様々な賜物がありますが、神の教会の民にこれらの賜物を与え、神の御心に従ってそれぞれの人に配分されたのは、同じ神、おなじ主イエス、同じ聖霊です。そして、その目的は「皆の益となるため」です – あなたは 一つの賜物を得ますが、あなたはキリストの教会全体の益のために、それを用います。

13 節を読みましょう – 「しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。」

27 節 – 「あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。」

私たちは皆、異なる背景から来ていますが、一つの聖霊によって力を与えられた、キリストの体の部分です。この体が正しく機能するために、夫々のメンバーは自分の部分を働かせる必要があります。各自は尊重され、各自は重要です。皆さんのための、私の今日の最後の訓戒は、私たちにそれをするために力を与えてくださる聖霊に頼りつつ、キリストの体が十分に動くのを助けるために、あなたの教会であなたが出来る奉仕の場を見つけることです。

今日のメッセージの冒頭で、長年にわたって日曜日の会報に掲載されてきた重要な聖句、エペソ 2:19 を紹介した。また、この 25 年ほどの間、私たちの会報には、私が強調したい別の箇所が掲載されてきました。今日の週報に掲載されています。OIC の "ビジョン・ステートメント" です。これを見た記憶がある人はどれくらいいるのでしょうか？初めて目にする人もおられるかもしれません。

日曜日の週報にある OIC の「ビジョン・ステイトメント」を引用して、今日の説教を終わりにします。

「イエス・キリストの生涯と愛を、文化の多様性の中で一致して示し、関西地域に滞在する外国人と日本人がキリストの救いと成長の信仰に引き寄せられるようにするために。」

関西に住む外国人と日本人がキリストを信じる信仰に引き込まれ、成長するように

これが私たちの教会の使命です。近隣や職場の人々に手を差し伸べ、福音のメッセージを伝えることです。ノンクリスチャンに福音を伝えること。同胞であるクリスチャンが神に近づき、信仰を深めていくように励みます。家族や友人、仕事仲間や同僚の人生に福音のメッセージを伝える。彼らを教会の交わりに招き、イエス・キリストとの関係に招き、クリスチャンの弟子として霊的に成長させる。

これで今日のメッセージを終わります。

God bless you all.

Happy Anniversary, OIC!

皆様に神の祝福がありますように。

OICの皆さん、記念日、おめでとうございます！ Happy Anniversary, OIC!

今日の「聖書朗読」のテキスト

エペソ人への手紙 2:18-22 – 「私たちは、このキリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことができます。こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。この方にあって、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、このキリストにあって、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。」

ヘブル人への手紙 10:22-25 – 「そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。²³ 約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。²⁴ また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。²⁵ ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」